

日本エコレザーの6つの条件

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※染色堅ろう度とは、染色された色が摩擦や使用条件にどれだけ耐えるかの指標



# エコレザーは世界に誇れる安心・安全の革。 気軽に相談し、さらに認定申請してほしい

出席者

大形公紀氏（一般財団法人日本皮革研究所・分析センター室長）  
吉村圭司氏（NPO法人日本皮革技術協会 副理事長）  
稲次俊敬氏（NPO法人日本皮革技術協会 副理事長）

## 皮革分野における国内唯一の 調査・試験・研究・相談機関

吉村 このエコレザー座談会では、エコレザー認定の話が常に取り上げられますが、本日は「日本エコレザー基準（JES）」認定の現場で、実際の検査を行っている一般財団法人日本皮革研究所・分析センターの大形公紀（おおがたこうき）室長に参加していただきました。この機会に認定の実態についてお聞きしたいと思いますが、初めに日本皮革研究所の組織についてお教えください。

大形 公益法人として、1938年（昭和13年）に現在の経済産業省の管轄下で設立され、一般財団法人として

5年前に再スタートしました。当財団は、皮革とその副産物の理化学的な基礎研究と応用研究を専門に行う、我が国唯一の財団法人です。

基本的な業務としては、皮革に関するJISや国際規格に準じた試験などを受託しています。その他、クレームに対する原因調査・報告・改善指導も行っています。また、財団法人としての公益業務では、展示会への出展や講習会などを開催し、皮革に関連した情報提供も行っています。

吉村 研究開発ではどのようなことを行っているのでしょうか？

大形 皮革に関連した有害物質の生成を抑制するための研究や、皮革の動

物種を特定するための新たな判別方法の技術開発・普及も行っています。動物種の判定などはこれまで、電子顕微鏡で繊維構造や毛穴を見て判別していましたが、この方法には限界があります。これを動物のタンパク質（コラーゲン）のアミノ酸配列の違いによって判別する方法を確立し、導入しています。

## JES認定試験は 年間100件ほど

稲次 2009年にJESが制定されましたが、研究所の役割は？

大形 当研究所は、08年からJESの試験依頼の受託を行っています。ここではJES認定のための14項目の試験



足立区千住の研究所にて

研究所本部が入る東京・足立区のニッピ本社ビル



エコレザー試験の様子

茨城・取手市にある分析センター



大形公紀氏

すべてを行うことができます。試験結果を委託事業者にお渡しした後は、それを扱う事業者が一般社団法人日本皮革産業連合会に対して、必要書類をそろえて認定申請をすることになります。

**吉村** 一般的な試験の件数とJES試験の件数はどれくらいありますか。また、JES試験では不合格もあるかと思いますが、どの程度ありますか。また、不合格となった検体に対しては、依頼者に何かアドバイスやサポートするようになっていますか。

**大形** 当研究所が受け付けている試験件数は、年間2500〜2600件ほどあります。JESについては、昨年度は100件を超す試験を行いました。今年度は、例年より出足はいいようですが、委託件数としてはここ数年横ばい傾向です。

JES試験のうち、不合格の比率は3割ほどあります。不合格の事例に対しては、こうすれば合格するのではなideしようか、といった改善方法を、われわれのできる範囲で行う場合もあります。それによって、再度試験を行い、合格した事例もたくさんあります。

**吉村** どのような項目で不合格になるケースがありますか？

**大形** 以前は鉛のような重金属の検出が多くありました。最近では、溶出重金属の項目で総クロムが不適合となる事例が多く見受けられます。ほかには色落ちの項目で不適合になる場合もあります。クロムの溶出などは、なめし段階での洗浄を適切に行えば改善できる場合が多いと思われます。

### 日本の厳しい基準は 広く外に発信すべき

**吉村** 小池都知事の就任記者会見で、東京製品のブランディングについての戦略や考えを述べていました。東京で生産される優良な商品を、もっとブランド化していくというのですが、ここにJES認定のエコレザーを載せることが可能かと思えます。環境にやさしいということは、広く外に向けて発信できることだと思います。

**稲次** 海外の製品では色落ちなど気にしないものもありますが、JESの試験項目には「染色摩擦堅ろう度」があり、大変厳しい内容になっています。海外には「エコテックス100」や「SG

ラベル」といったエコ基準があります。が、日本の基準がどこよりも厳しいのではないのでしょうか？

**大形** そうですね。今年4月から「特定芳香族アミン」を容易に生成するアゾ染料の規制が始まりました。こうした規制物質の検査も積極的に対応しています。このアミンについてももう少し説明をします。特定芳香族アミンを生成するアゾ染料は、日本での製造は既に禁止されていたのですが、使用は禁止されていませんでした。

アゾ染料は3000種類以上あるといわれており、染料の約65%を占めています。このアゾ染料が何らかの原因で分解されると、アミンという物質ができますが、このうち発がん性のある、あるいは疑いのある24種類の特定芳香族アミンを生成するアゾ染料に限って規制しています。

従って不使用宣言書を出すか、あるいは実際に検査を行って検出されないという証明書を出すことが必要となります。JESでは、この規制を先取りして基準値への適合を求めています。このため、すでにJES認定がなされている革であれば、「特定芳香族アミン」を使用しない、安心・安全な革であることの証明にもなります。



吉村圭司氏



稲次俊敬氏

## 認定試験の費用は、合格すれば補助される

**吉村** JES認定では、費用や時間が掛かることを問題点として指摘する声がありますが、このことについての現状をお聞かせください。

**大形** 1検体の試験費用は、通常は10万円、色違い項目で5万円です。試験項目や試験内容は決まっております、これを簡便化や省略することは不可能で、高額な分析機器を必要とする試験を行うためある程度の費用が掛かります。

試験期間については、現状では1検体で2週間ほどかかります。しかし、これまで、数多くの件数をこなし、作業性ははるかに向上してきており、従来よりも時間短縮は可能となっています。

**稲次** 業者さまは、試験料金でお困りのようですが、皮革産業連合会が奨励金制度を設けています。認定された革の分析費用を負担した業者さまが申請すれば、その3分の2の補助が受けられるので、負担は小さくなります。

JES認定の申請は輸入革でもできるかと思いますが、これまでに海外

のタンナーがJES試験を依頼してくることはありましたか？ また、輸入革の試験依頼はありますか？

**大形** 試験の門戸は広く開放していますが、海外の業者から直接試験を受託した例はありません。輸入革についても分析をした事例はありますが、JESの認定申請まで至ったことは聞いていません。

**稲次** JES認定された日本のエコレザーの存在は、海外でもっと知ってもらうようにすべきだと思います。また、そういうグローバルな認識でモノづくりをしていけば、業界の取り組みも変わってくるのではないのでしょうか。

**吉村** 2014年の10月に岡山市で皮革科学技術に関するアジア国際会議が開催されましたが、こうした機会を通して日本のエコレザーに対する取り組みはPRしており、相当知れ渡ってきていると思います。

実際、日本のようにきちんと取り組みんでいる国は少ないと思います。厳しいといわれているドイツなど海外のものを見て、それほど認定取得はされていません。「安心・安全な革」の認定件数

は、圧倒的に日本が多いと思います。

**稲次** 日本エコレザーを使った革製品なら、エコマークの取得もできます。これも新たな商機になります。環境にやさしいというテーマで、ほかの人が取り組む前に先んじることが勝機となり、パイオニアになると思います。勝ち組となるためには、大いに汗をかかなくてはなりません。

**吉村** 最後に大形さんからメッセージをお願いします。

**大形** 皮革や皮革製品に関すること何かお困りのことがありましたら、最初はメールでもなんでも構いません。相談は無料ですので、遠慮せずとにかく声をかけてください。メールのやり取りの後、実際にモノを見ることで、いろんな気づきやアイデアが出てくることもあります。

相談をきっかけに、新しい方向に進んでいった事例もたくさんあります。熟練の相談員も備えています。可能な限り対応しますので、一度相談してみてください。皮革関連の企業様に信頼され、企業様に寄り添うことのできる研究所になることを目指しています。